

美容サロンの利用実態を調査する【美容センサス2017年上期】 調査結果から明らかになった、消費動向をご紹介します！

美容センサス上期・・・男女の美容サロンの利用（利用率・利用頻度・利用単価など）に関する経年調査
美容センサス下期・・・男女の美容意識と美容行動全体（サロンおよび代替環境を含む）に関する経年調査



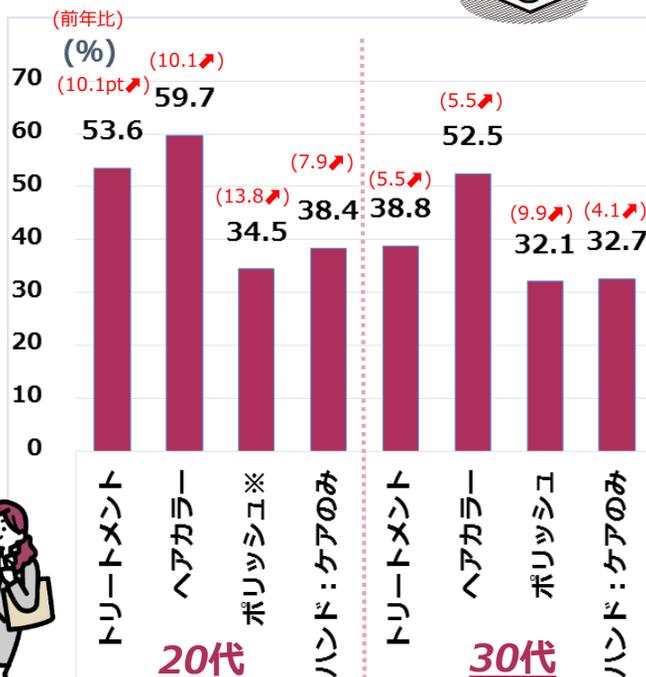
兆し①

～やっぱり美容はプロに任せたい!?～

20～30代女性の美容サロン利用が活発に!?

20～30代女性のサロン利用が活発になっている。

各サロンの1年間の利用率をみると、美容室では20代が4.3pt増、30代は2.6pt増、ネイルサロンでは、20代が4.8pt増、30代で2.8pt増、他にもエステ、リラクゼーション等のサロンで20～30代が他年代に比べて伸びを見せた。利用メニューも多様化している。美容室ではヘアカラーとトリートメントが増加し、特に20代では2人に1人以上が美容室でのトリートメントを実施している。ネイルサロンでは、20代のポリッシュ※(マニキュア、ペディキュア等)や、ケアメニューの利用率が大幅に伸びた。



◆社会背景

結婚・出産しても働き続ける女性が増えている。2015年に女性活躍推進法が施行され、企業では育休制度が改善されたり、男性の育休取得が促進されるなど、女性にとって働きやすい職場が増えてきたようだ。実際に労働力調査※での「女性の年齢階級別就業率の推移」においても、出産の多い25～39歳のM字型カーブは年々緩やかになっており、ワーキングママ等の共働き世帯が増えていると言えそうだ。

※出典：総務省 労働力調査年報(平成24年)より



◆データから見る美容業界の動向分析

▶美容室

黒髪ブームからカラーブームが再燃。カラーとトリートメントのセットメニューが増えたことから、両方を利用する人が増えているものと思われる。また、近年トリートメントの種類・価格のラインナップが充実し、気軽に試せる安価なものや、高価でもそれぞれの髪質に合う良いものが増えたのも、利用率を押し上げた理由のひとつと言えそうだ。また20代は、Instagramなどで自分を見せる機会が多いため、髪や手元への意識が高くなっているのかもしれない。

▶ネイル

ネイルサロンでは、ポリッシュ※の利用率が増加しているが、ジェルの利用率は変わっていない。これには2つの流れがあり、1つめは、ジェル利用者が「ジェルで傷んだ爪をしばらく休ませるためにポリッシュ※を利用する」という動き、2つめとして、サロン初心者が「まずはポリッシュ※で来店する」という動きもあるようだ。ポリッシュ※とケアメニューについては、実は他年代の伸びも好調。ホームケア商品が充実する一方で、プロのサービスを求める女性が増えていると考えられる。

※「ポリッシュ」は「ハンド:ポリッシュカラー(ケア含む)」「フット:ポリッシュカラー」

▶美容センサス2017年上期 調査概要：

- ▶ 調査目的：男女の美容意識を把握し、美容の利用動向に対する定期観測を行う。
- ▶ 調査方法：インターネットによるアンケート調査
- ▶ 調査対象・調査エリア：
 - ▶ 全国、人口20万人以上の都市在住の15～69歳の男女サンプル（女性6,600サンプル、男性1,100サンプル）
 - ▶ 70代（70～79歳）データについて ※同時期・同内容で調査を実施した男女70～79歳は全体値には含まず、参考数値として掲載(全体値にも含まず)
- ▶ 調査時期：2017年2月17日（金）～2月26日（日）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートライフスタイル 広報グループ
<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press>

兆し②

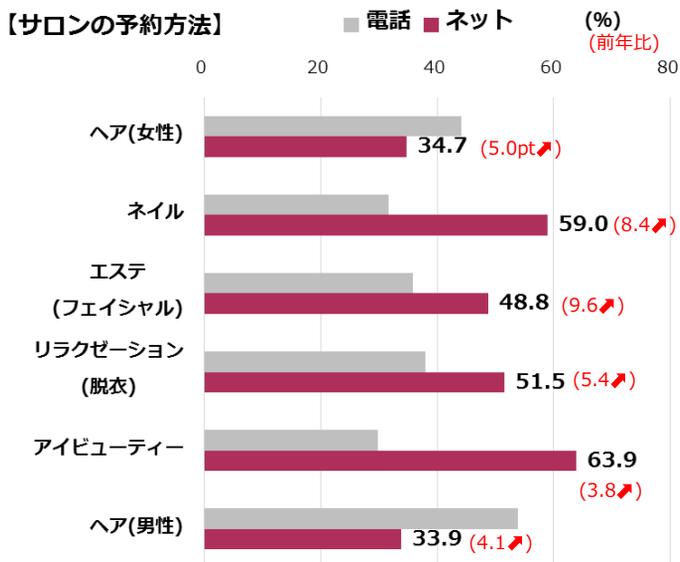
～若者だけじゃない！～

ネット予約はもはや主流！ 美容室でもついに男女共に3割超え

ネット予約がさらに拡大しており、ついに美容室(ヘア)で全体の予約方法のうち、ネット予約をする人が男女共に初めて※3割超えを記録。他、ネイル・エステ(痩身)等では約6割、脱毛では約7割をネット予約が占めるまでになった。

年代別では、美容室で20～30代女性のネット予約が、ネイルでは30～50代女性のネット予約が電話予約を初めて上回った。また、サロン認知もネット経由が主流になっている。女性のネイル、エステ、リラクゼーション、アイビューティーサロン等の認知経路は、「予約・口コミサイト」がトップになっており、アイビューティーでは5割を占める。

※2014年に調査開始以来初めて



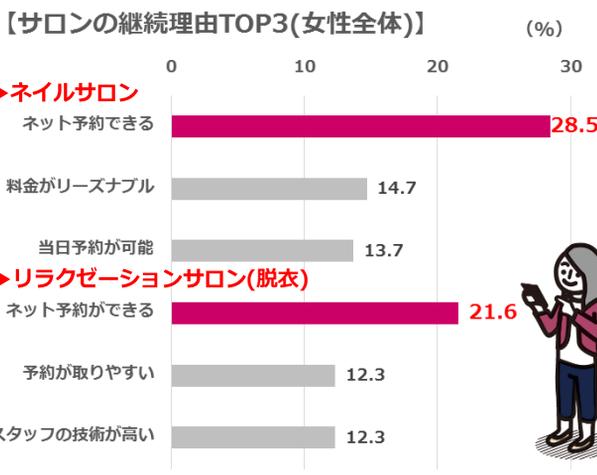
兆し③

～価格よりも大事!?～

美容サロンのリピートの鍵は、 ネット予約にあり！

サロンの継続・離脱にも、ネット予約の可否が影響を与えている。女性のネイル、エステ(フェイシャル・痩身・脱毛)、リラクゼーション脱衣(男女)、アイビューティーにおいて、サロン継続理由として、「ネット予約できる」がトップになった。特にネイル、リラクゼーション脱衣では、2位以降を10pt以上、アイビューティーでは20pt以上引き離れた。

特にネイルにおいては、2015年上期調査時も「ネット予約ができる」が17.4%でトップだったが、2位の「料金が明確である」と1.2pt差の僅差だった。しかし今回は28.5%にまで上がり、2位の「料金がリーズナブル」(14.7%)を大きく引き離れた。ライフスタイルが多様化する中で、時間や場所を問わないネット予約の重要性がより増しているようだ。



◆社会背景

ライフスタイルが多様化し、“いつでもどこでもできる”オンラインサービスが拡大している。経済産業省が発表したサービス系分野※1の電子商取引市場規模※2をみても、様々なサービスの中でも「理美容サービス」のネット予約市場は、前年比伸び率34.7%と大きな伸びを見せている。

◆データから見る美容業界の動向分析

消費者の需要増加に伴い、ネット予約を活用する美容サロンも増加している。ネットで、外から中の様子が分かりにくい美容サロンでも、明確に雰囲気やメニュー、価格が分かるようになった。

ネット予約は、時間や場所を選ばないだけでなく、過去の利用履歴も自分で確認しながら予約できる、などの利点がある。また直前予約もできる美容サロンも増えている。またネット予約率が高い若年層にとっては、時間や場所の問題だけでなく、「直接の会話をしなくていいから」という人も約1割存在し、世代特性が浮き彫りになっている。これからはさらに若年女性以外の年代や男性にも広がりを見せていくことだろう。

※1 物品販売ではなく、オンライン予約や申込サービスの分野

※2 平成28年度、経済産業省・電子商取引に関する市場調査より(平成29年4月24日発表)

【電子商取引市場規模(サービス系分野)】

分類	2015年	2016年	伸び率
飲食サービス	2,379	3,292	38.4%
理美容サービス	2,420	3,261	34.7%
チケット販売	3,750	4,468	19.1%
その他※	5,423	6,005	10.7%
旅行サービス	28,850	30,393	5.4%
金融サービス	6,192	6,113	▲1.2%
サービス市場・計	49,014	53,532	9.2%

(億円)

※医療、保健、住居関連、教育等